

| 学校運営方針 | | 学校運営計画(4月) | | 評価 | |
|---|--|--|----|-------|---|
| 校訓「自立・勤勉・創造」のもと、地域を愛し、地域に愛され、地域に信頼される校風づくりに努める。志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持ち、地域に貢献できる責任感ある人材の育成を目指す。 | | | | | |
| 昨年度の成果と課題 | | 本年度重点目標 | | 具体的目標 | |
| <p>授業規律の確立に重点を置き、全教員で授業中の巡回や継続的な生徒指導に取り組んだ結果、生徒の状況は落ち着きつつある。しかし、中途退学者の増加傾向や遅刻を繰り返す生徒への指導など、いくつかの課題が残った。</p> <p>今後は授業規律の確立や「立ち止まり指導」による生徒指導を継続するとともに、「遠賀スタイル」の授業を更に充実させることにより、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎学力の充実を図り、生徒の希望進路実現を目指す。また、「鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動」を実践することによって、生徒の「自己有用感」を高め、中途退学の防止及び問題行動の未然防止に努める。</p> | 基礎学力の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 「遠賀スタイル」の授業を通じた生徒の学ぶ意欲の向上と課題解決能力、自己肯定感の涵養 「検定学習帳」を活用した生徒の基礎学力を充実させる取組 1年次の国語、数学、英語で、習熟少人数指導の導入 「授業サポーター」の取組により、生徒が落ち着いて授業に取り組む環境を作り出す | | B | |
| | 社会人として必要な規範意識、マナー、モラルの育成 | <ul style="list-style-type: none"> 「立ち止まり指導」の徹底 5分前行動の徹底 元気な声での挨拶励行 整理、整頓、清掃指導 部活動の活性化 全教育活動での人権感覚の育成 生徒会の活性化と生徒が主役の学校行事の積極的推進 | | | |
| | 生徒の勤労観及び職業観の育成、コミュニケーション能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業生、保護者、外部講師などを活用した進路講話 キャリアカウンセリングの充実 インターンシップ、オープンスクールの充実 応募前職場見学の完全実施 面接指導の計画的推進 特色を生かした資格取得の推進 特別支援教育就職支援コーディネーターの活用 | | | |
| | 特別支援教育、教育相談体制の充実による生徒支援 | <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉面談 連続欠席生徒への家庭訪問の完全実施 家庭訪問(1年生全員) 特別支援教育の積極的推進 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員の活用 | | | |
| 開かれた学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 出前授業の推進 ボランティア活動への積極的参加 地域の方々との積極的な交流 幼、保、小、中、大学生との交流 | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 今後の課題 | |
| 教務 | 授業規律の確立、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 | 欠席・遅刻者に対する早期対応を徹底する。生徒の出席動態をデータ化し、共通理解を図る。 | B | B | <p>授業規律については落ち着きを見せているが、一部生徒への対応に時間を費やしており、改善に向けた指導では、学校における継続的な指導だけでなく、家庭を巻き込んだ指導を検討していく必要がある。授業改善については、新しい学習指導要領の趣旨に沿った工夫や取組を今後も続けていきたい。また教育課程の編成についても本校の教育目標達成に向けて生徒のニーズを的確に把握し、検討を重ねていきたい。次年度からは、学科・コース集会の定期開催に向けて、行事の調整を行いたい。</p> |
| | 確かな学力の定着を図り、授業改善に努める。 | 校内検定の指導方法の改善を図り、授業と並行して義務制段階の学び直しを確実に進める。 | B | | |
| | 学科・コースの特色化を推進し、生徒の学科・コースへの帰属意識を育てる。 | 社会人特別講師の招聘事業、専門学校との連携、地域との交流や校外実習をなお一層推進する。 | A | | |
| | | 学科・コース主任会議を開催し、集会等を通して生徒の所属する学科・コースへの帰属意識を育てる。 | B | | |
| 生徒指導 | 進路実現に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせる | 礼儀正しい挨拶を推進するとともに、身だしなみやマナー指導等、立ち止まり指導を徹底する。 | B | B | <p>基本的な生活習慣の確立については、改善している生徒は増加傾向にあるが、効果的な指導方法を早期に検討し、教職員の意見を聞きながら共通理解を得るの指導が実践できなかった。今後は指導方法と計画的な指導計画を検討する必要がある。また生徒会活動については、学校行事において生徒の自主性に基づいた運営ができつつあるが、各種専門委員会の在り方と運営についても、早期に再検討が必要である。部活動の活性化については、部顧問の放課後の指導時間の確保と放課後の会議計画などの見直しが課題である。</p> |
| | 人権尊重の精神を育て、コミュニケーション能力を身に付けさせる | 全校集会や学年集会を実施し、学校の指導目標の意味を理解させ、生徒の意識改善に努める。 | B | | |
| | 部活動、生徒会活動の活性化を図り、行動力のある生徒を育成する | 学校生活アンケートやいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 | B | | |
| | 基礎学力を身に付けさせる。 | 集会等を通して人権教育を推進するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、訪問相談員を活用する。 | A | | |
| 進路指導 | 職業観や労働観を養い、3年間を見通したキャリア教育を推進する。 | 部活動紹介や学校行事で部活動生の活躍の場を増やし、部活動加入率30%以上を目指す。 | C | B | <p>基礎学力向上委員会が上手く機能しなかったため、委員会の運営について見直しをしたい。キャリア教育については、年間計画を立てるなど、より緻密な計画が必要である。夏季休業中の3年生に対する指導については、看護系進学希望者に対してもっと手厚く対応するなど、内容の検討が必要である。</p> |
| | 進路目標を達成させるための取組を行う。 | 委員会会議を毎月開催し、生徒の意見を尊重しながら、行事等に積極的に参加する態度を養う。 | B | | |
| | | 基礎力診断テストの学習到達度テスト「D2」以上の生徒45%を目指す。 | B | | |
| | | 基礎学力向上委員会を定期的に開き、学力向上の手立てを検討する。 | C | | |
| 第一学年 | 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の育成に努める。 | 1年生「知る・学ぶ」2年「経験する」3年「挑戦する」をテーマに進路計画を立てる。 | B | B | <p>1学期は遅刻・欠席が非常に少なかったが、2学期に遅刻者が増加してしまった。全体的には遅刻・欠席をする生徒は少ないが、特定の生徒が繰り返している状況があったため、学年を挙げて指導することで一定の成果を上げることができた。各種検定には担任をはじめ学年からの積極的な声掛けにより、多くの生徒が参加するようになった。保護者との関係については、担任を中心に日々の連絡等を通してよく連携がとれているため、学校の指導に対する協力体制を構築できている。進路指導面では、進路ガイダンス等、生徒に必要な進路情報を提供してきたが、来年度は進路実現に向けて、生徒の意識を更に高めていく必要がある。</p> |
| | 授業規律を遵守する意識を高め、基礎学力の充実を図り、生徒の自己理解を深める。 | 社会人と連携した「生きたキャリア教育」を推進する。 | B | | |
| | 保護者との連携及び生徒理解に努めるとともに、生徒の自己有用感を育む。 | コース別進路学習や夏季課外を実施し、就職試験や一般入試に向けた対策をとる。 | B | | |
| | | 応募前職場見学を推奨し、就職の際のミスマッチを防ぐ。 | A | | |
| 第二学年 | 学習環境を整備し基礎学力の充実・伸長を図る。 | 遅刻・欠席者指導の徹底により、規則正しい生活リズムを身に付けさせる。 | B | B | <p>1年次の課題であった基本的な生活習慣の確立と学習環境の整備を目標に努めてきたが、修学旅行直前まで浮ついた雰囲気が続いた。その影響が一部の生徒の問題行動や成績の低迷等に及んだと思われる。遅刻指導においては連日、放課後課題等に力を注いだが、十分な改善が見られなかった。進路指導と関連付けて根本的な意識改革をする必要がある。進路実現に関する意識の低さが夏休みのオープンキャンパスやインターンシップの取組にも見られ、指導に課題が残った。生徒・教員ともに意識を変え、HRや集会等で進路実現に必要な要素を伝える場をこれまで以上に増やしていく必要がある。また、上級学年になる次年度には多くの生徒が活躍する場面を増やし、リーダーの育成を図っていきたい。</p> |
| | 基本的な生活習慣を確立させ、基本的なマナーや校則の遵守を通して、集団における規範意識を育成する。 | 社会生活上必要なルールを身に付けさせるため、マナー指導を徹底させる。 | B | | |
| | 希望進路目標を明確にし、進路実現に向かう姿勢を培う。 | 教室の整備を徹底し授業環境を整えることで、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組む姿勢を育てる。 | A | | |
| | 保護者との連携を図り、生徒理解を深め、生徒の課題解決能力及び自己理解力の育成に努める。 | 校内検定や各種検定への積極的な参加を促すことにより、基礎学力の充実を図る。 | A | | |
| 第三学年 | 社会人として必要な基本的な生活習慣およびマナーやコミュニケーション能力を身につけさせる。 | 家庭訪問を通して家庭との連携を深めるとともに、生徒との面談を年2回以上行うことによって、生徒理解に努める。 | A | B | <p>年度当初には少なかった遅刻や欠席が、2学期以降増加してしまっ。基本的な生活習慣は昨年の修学旅行以降大幅な改善が見られたが、就職試験等に臨むには不十分であり、1年間を通して指導を続けた。学校生活においては生徒会執行部を中心に学校行事を作り上げることができた。またさまざまな学校行事では、教員からの指示がなくても生徒同士で声を掛け合い、企画立案を主体的に行うなど学校の活性化に結びついた。上級学校へ進学を希望した生徒の多くは希望進路を実現したが、残念ながら第一希望の進路を実現できなかった生徒もおり、進学希望者に対する指導が不十分であったことが反省点として挙げられる。</p> |
| | 生徒がいきいきとした学校生活を送れるように支援する。 | 学校行事やホームルーム活動の中で多くの生徒に役割を与え評価することによって、生徒の自己有用感を育む。 | B | | |
| | 卒業後の希望進路目標を明確にさせ、希望進路実現100パーセントを目指す。 | 授業サポーターを活用し、始業時には授業ができる体制を整える。 | B | | |
| | | 校内検定、朝学、定期考査に真面目に取り組ませ、長期休業中の課題提出を徹底する。 | B | | |

| | | | | | | |
|------|--|--|---|---|---|---|
| 保健 | 自己管理の意識向上と体調を崩した際の改善の資質、能力を身に付けさせる。 | 生徒保健委員会活動の活性化を図り、生徒の健康に関する問題意識を高める。 | B | B | B | スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用には大きな効果があり、次年度以降もさらに活用できるような環境を作っていく、教員間の情報交換を密にして、諸問題に取り組んでいきたい。一方で、訪問相談員の活用に関しては十分とは言えず、本校の実態に即して、どのように活用できるのか、様々な事例や情報を提供しながら次年度の課題として取り組んでいきたい。また、本校の清掃状況の改善に向けて、次年度は大掃除の他に中掃除を新たに実施しながら、清掃の機会を増やし、生徒・職員の美化意識を高め、実質的かつ効果的な取り組みを実践していきたい。 |
| | 生徒の現状・実態の把握に努める。 | 担任・保護者と協力し健康診断における事前・事後指導を徹底させ、受診時の挨拶やマナーを守る態度を育成する。 | B | | | |
| | | 担任・保護者との連携及び保健アンケートや健康相談を通じて生徒の実態把握に努めるとともに、必要に応じて適切な支援体制を作り、その対応を行う。 | A | | | |
| | | SC、SSW、訪問相談員を効果的に活用し、関係職員と連携を図り、アセスメント、コンサルテーションを十分に行う。 | A | | | |
| | | 学習環境を整備し、公共物愛護の精神を育成する。また、同時に厚生施設の利用マナーを身に付けさせる。 | B | | | |
| 農場 | 各教科における実験・実習の内容の充実を図り、わかる授業の推進に努める。 | 各教科・担当農場部門において実験・実習を効果的に行い、体験を通して生徒の理解を深める。実験・実習を計画的に行うことで、教科間のつながりを持たせ、学習内容の充実を図る。 | B | B | B | 農業に関する各教科において「遠賀スタイル」によるわかる授業の推進に取り組んだ。特に実験・実習を主とする科目においては、実習における本時の目標、実習の目的や意義を明確にすることで理解の深化や達成感の育成ができた。今後は、実習圃場における栽培計画に沿った実習指導を効果的にすることが課題である。地域や関係機関との連携については、遠賀町と連携した交流会や農家視察、遠賀川駅前での農産物販売会など新たに実施することができ、昨年度より充実したものとなった。産業教育フェアや海づくり大会においても装飾や販売など本校PRに貢献することができた。 |
| | 農場の有効活用に向けた、管理および整備を徹底する。 | 農場の環境整備を行い、実習における農業教育の充実を図る。 | B | | | |
| | 生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 | 農場部職員間の連携を深め、共通理解のもとで風通しの良い農場運営に努める。 | A | | | |
| | 地域や農業関係機関との連携を図り、本校の活性化に努める。 | 学科職員が生徒の希望進路を把握し、学年と連携して適切な進路指導を実施する。教科指導と共に、適切な職業観を育成し、3年間を通じたキャリア教育を実践する。 | B | | | |
| | | 学校行事や農産物販売を通しての地域との交流活動を実施する。地域の関係機関との連携や地域イベント参加などによる学科のPRを行う。 | A | | | |
| 人権教育 | 人権教育の視点に立って、授業創造・授業改善の取組を推進する。 | 一人ひとりの意見を大切に人権教育の視点に立った授業創造・授業改善の取組を推進する。 | A | A | A | 今年度は県指定の検証授業やいじめ対策の特設授業など、例年に比べ特設授業に力を注ぐことができた。視聴覚教材を使用したことも、学年会議等で事前事後の研究協議ができたことも取組の成果として挙げられる。また、特別支援教育やいじめに関する職員研修は充実して行うことができた。発生する様々な事案に対しても柔軟かつ迅速に対応できている一方で、保護者や職員に対する人権についての啓発活動の不足が課題として残った。奨学金や個別の人権課題についてなど、これからも研修を積極的に行う必要がある。 |
| | 課題のある生徒をはじめとして、個々の生徒の実態把握を行い、生徒支援に努める。 | 生徒が経済的な理由で中途退学しないよう、事務室や関係機関との連携により、経済的な支援に努める。支援の必要な生徒や課題のある生徒及びその保護者に対する相談・支援体制を充実させ、中途退学防止に努める。 | A | | | |
| | 特別支援教育の取組を充実させる。 | 特別支援教育に関わる職員研修を充実させ、学校全体で取り組む。外部の関係機関との連携や県の事業等を活用し、支援の充実を図る。 | B | | | |
| | | | B | | | |
| 広報 | 本校受検者の増加を目指す。 | 中学校へ積極的な訪問を行うことで、ニーズを把握するとともに、学校紹介や模擬授業を推進する。 | A | B | B | 本校にとって、受検者の確保が最大の課題である。そのためにも、中学校訪問や出前授業を積極的に行うとともに、地域行事には可能な限り参加し、本校の特色ある教育活動をアピールする必要がある。昨年度からの反省事項であったホームページの更新について、専任の担当者を置くことで現在まで70回（更新件数100件超）以上行っている。今後も継続して更新を行っていききたい。また今年はPTAの文化祭企画に生徒会がタイアップし、合同でバザーを行った。次年度は更にPTAの活動回数を増やし、PTAと生徒会、更には学校全体の活性化につなげていきたい。 |
| | 効果的な広報活動を行う。 | 中学生の体験入学の内容を充実させ、前年度を上回る参加者数140名を目標とする。広報誌の作成やホームページの更新回数を増やす。地域に根ざした広報活動を展開し、本校の教育活動への理解を深める。 | C | | | |
| | P T A活動の活性化を図る。 | 学校行事に対し、保護者の積極的な参加を促す。P T A総会の内容の改善について検討するとともに、学校配信メールの活用により、目標出席者数を前年度以上とする。（前年度28名） | A | | | |
| | | | A | | | |
| 研修 | 「わかる授業」を目指した遠賀スタイルの構築を行う。 | 授業アンケートを7月と12月に実施し、迅速に分析を行う。 | A | A | A | 授業改善が最重要課題と考え、今後の授業に生かせるようまとめを行った。授業アンケート実施率100%、授業参観の実施率は94.7%だった。課題研究発表会担当者会を月に1回開き、学科・コースの横のつながりを考えて進めることができた。年々プレゼンテーションの質はあがっている。生徒主体という点ではまだ課題は残るが、次年度は校外で全体発表会をすることも検討したい。 |
| | 校内外の研修の充実を図る。 | 授業公開月間を設け、実施方法を検討する。研修の回数や内容や方法を事前に検討・精選する。校外研修の内容を研究紀要等と通じて全職員に還元する。 | A | | | |
| | 課題研究の充実を図る。 | 教務課と連携し、定期的に課題研究担当者会を計画的に実施する。発表者や生徒実行委員の指導を丁寧に行い、生徒主体の発表会になるように努める。 | B | | | |
| | | | A | | | |